

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6745703号  
(P6745703)

(45) 発行日 令和2年8月26日 (2020.8.26)

(24) 登録日 令和2年8月6日 (2020.8.6)

(51) Int.Cl.

F I

G 0 6 F 3 / 0 4 1 (2006.01)

G 0 6 F 3 / 0 4 1 4 2 0

請求項の数 7 (全 23 頁)

(21) 出願番号 特願2016-212553 (P2016-212553)  
 (22) 出願日 平成28年10月31日 (2016.10.31)  
 (65) 公開番号 特開2018-73144 (P2018-73144A)  
 (43) 公開日 平成30年5月10日 (2018.5.10)  
 審査請求日 令和1年7月25日 (2019.7.25)

(73) 特許権者 000006013  
 三菱電機株式会社  
 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号  
 (74) 代理人 100088672  
 弁理士 吉竹 英俊  
 (74) 代理人 100088845  
 弁理士 有田 貴弘  
 (72) 発明者 中村 達也  
 東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 三  
 菱電機株式会社内  
 審査官 木内 康裕

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 タッチスクリーン、タッチパネル、表示装置および電子機器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

主面を有する基板と、

前記主面の上に配置され、第1の複数の配線を備え、前記第1の複数の配線が検出配線および励起配線的一方であり、前記第1の複数の配線の各々が第1の線状部および第1の複数の枝分かれ部を備え、前記第1の線状部が第1の方向に延在し、前記第1の複数の枝分かれ部が前記第1の線状部から枝分かれする第1の電極と、

前記主面の上に配置される絶縁膜と、

前記主面の上に配置され、前記絶縁膜により前記第1の電極から絶縁され、第2の複数の配線を備え、前記第2の複数の配線が前記検出配線および前記励起配線の他方であり、前記第2の複数の配線の各々が第2の線状部および第2の複数の枝分かれ部を備え、前記第2の線状部が前記第1の方向と平行をなさない第2の方向に延在し、前記第2の複数の枝分かれ部が前記第2の線状部から枝分かれし、前記第2の線状部が前記第1の線状部と立体交差し前記第1の複数の枝分かれ部と立体交差せず、前記第2の複数の枝分かれ部の各々が縁部を備え、前記第2の線状部および前記縁部に囲まれる空洞部が前記第2の複数の枝分かれ部の各々に形成され、前記主面の法線方向から平面視された場合に前記縁部が前記第1の線状部または前記第1の複数の枝分かれ部の輪郭に沿って並行する部分を有するが前記第2の線状部の輪郭に沿って並行する部分を有しない第2の電極と、  
 を備え、

前記第1の複数の枝分かれ部の各々は、

10

20

前記第 2 の方向に延在し第 1 の幅を有する第 1 の延在部を備え、

前記第 2 の複数の枝分かれ部の各々は、

前記第 2 の方向に延在し前記第 1 の幅と同じ第 2 の幅を有する第 2 の延在部を備えるタッチスクリーン。

【請求項 2】

前記縁部は、

第 1 の部分と、

前記第 1 の部分と導通し、前記第 1 の複数の枝分かれ部から見て前記空洞部により前記第 1 の部分から隔てられる第 2 の部分と、

を備える

請求項 1 のタッチスクリーン。

【請求項 3】

前記第 1 の複数の配線の各々は、

酸化インジウムスズ、金属配線材料または合金配線材料からなる第 1 の層を備え、

前記第 2 の複数の配線の各々は、

酸化インジウムスズ、金属配線材料または合金配線材料からなる第 2 の層を備える

請求項 1 または 2 のタッチスクリーン。

【請求項 4】

絶縁体からなり前記空洞部および前記第 1 の電極と前記第 2 の電極との間隙を埋めるダミーパターン

をさらに備える請求項 1 から 3 までのいずれかのタッチスクリーン。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 までのいずれかのタッチスクリーンと、

前記第 1 の電極と前記第 2 の電極との間の静電容量から、前記タッチスクリーンにおける指示体によりタッチが行われたタッチ位置を検出する検出回路と、

を備えるタッチパネル。

【請求項 6】

情報を表示する表示素子と、

請求項 5 のタッチパネルと、

を備え、

前記タッチスクリーンは、指示体によるタッチが行われる一方の主面と、前記表示素子が装着される他方の主面と、を有する表示装置。

【請求項 7】

請求項 5 のタッチパネルと、

前記タッチ位置に電子的な処理を行う電子処理部と、を備える電子機器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、タッチスクリーン、当該タッチスクリーンを備えるタッチパネルならびに当該タッチパネルを備える表示装置および電子機器に関する。

【背景技術】

【0002】

タッチパネルは、指等の指示体によりタッチが行われたことを検出しタッチパネルにおけるタッチが行われたタッチ位置を示す位置座標を特定する装置であり、優れたユーザーインターフェースの提供に寄与する装置として注目されている。現在製品として提供され

10

20

30

40

50

ているタッチパネルにおいては、抵抗膜方式、静電容量方式等により、指示体によりタッチが行われたことが検出される。

【0003】

一般的にいて、タッチパネルは、タッチスクリーンおよび検出装置を備える。検出装置は、タッチスクリーンから入力される信号に基づいてタッチ位置を示す位置座標を特定する。タッチスクリーンには、タッチが行われたことを検出するタッチセンサが内蔵される。

【0004】

静電容量方式のタッチパネルには、投影型静電容量 (Projected Capacitive) 方式のタッチパネルがある。特許文献1に記載されたタッチパネルは、その例である。特許文献1に記載されたタッチパネルに代表される投影型静電容量方式のタッチパネルにおいては、タッチセンサが内蔵されるタッチスクリーンの前面が数mmの厚さを有するガラス板等からなる保護板により覆われた場合でも指示体によりタッチが行われたことを検出できる。このため、投影型静電容量方式のタッチパネルには、タッチスクリーンの前面に保護板を配置することにより、優れた堅牢性を付与できる。また、投影型静電容量方式のタッチパネルは、手袋が装着された使用者の手の指によりタッチが行われた場合であっても、タッチが行われたことを検出できる。さらに、投影型静電容量方式のタッチパネルは、可動部を有しないため、長い寿命を有する。

【0005】

静電容量方式のタッチパネルは、典型的には第1の電極および第2の電極を備える。第1の電極は、典型的には複数の行配線を備える。第2の電極は、典型的には複数の列配線を備える。複数の行配線の各々は、行方向に延在する。複数の行配線は、列方向に配列される。複数の列配線の各々は、列方向に延在する。複数の列配線は、行方向に配列される。

【0006】

静電容量方式のタッチパネルにおいては、自己容量方式、相互容量方式等の検出方式により静電容量の変化が検出され、検出された静電容量の変化からタッチ位置が特定される。

【0007】

自己容量方式により静電容量の変化が検出される場合は、複数の行配線および複数の列配線が静電容量を検出するための検出用配線となり、指示体と複数の行配線の各々との間の静電容量の変化が検出回路により検出され、指示体と複数の列配線の各々との間の静電容量の変化が検出回路により検出され、検出された前者の静電容量の変化および後者の静電容量の変化からタッチ位置が特定される。特許文献2に記載された技術は、その例である。特許文献2に記載された技術においては、第1シリーズの導体エレメントと呼ばれる複数の行配線が備えられ、第2シリーズの導体エレメントと呼ばれる複数の列配線が備えられる。第1シリーズの導体エレメントは、薄い誘電膜の面上に付着される。第2シリーズの導体エレメントは、薄い誘電膜の面上に付着され、絶縁膜により第1シリーズの導体エレメントから絶縁される。第2シリーズの導体エレメントは、第1シリーズの導体エレメントと複数の交点を形成する。第1シリーズの導体エレメントの各々の静電容量が検出回路によりサンプリングされ、第2シリーズの導体エレメントの各々の静電容量が検出回路によりサンプリングされ、サンプリングされた前者の静電容量および後者の静電容量の変化から干渉物体と呼ばれる指示体の位置が決定される。

【0008】

相互容量方式により静電容量の変化が検出される場合は、複数の行配線の各々と複数の列配線の各々との間における電界の変化すなわち相互容量の変化が検出回路により検出され、検出された相互容量の変化からタッチ位置が特定される。特許文献3に記載された技術は、その例である。

【0009】

自己容量方式および相互容量方式のいずれにおいても、下記の位置座標を特定する方法

10

20

30

40

50

が一般的に採用される。すなわち、各行が１個の行配線を含み各列が１個の列配線を含むようにタッチ面が複数の平面領域に格子状に区画される。複数の平面領域の各々は、検出セルと呼ばれる。また、指示体によりタッチが行われた場合に、タッチが行われた検出セルであるセンサブロックにおける検出値とセンサブロックの近傍の検出セルにおける検出値とのバランスに基づいてタッチ位置を示す位置座標が特定される。

#### 【００１０】

最近においては、複数の行配線の各々の一端のみに引き出し配線を接続し、複数の列配線の各々の一端のみに引き出し配線を接続する接続形態が実現されている。この接続形態は、酸化インジウムスズ（ITO）からなる透明電極より低い電気抵抗を有するメタルからなるメッシュ状の電極により検出用配線を構成することにより実現可能となった。特許文献４に記載された技術は、その例である。

10

#### 【先行技術文献】

#### 【特許文献】

#### 【００１１】

【特許文献１】特開２０１２－１０３７６１号公報

【特許文献２】特表平９－５１１０８６号公報

【特許文献３】特表２００３－５２６８３１号公報

【特許文献４】特開２０１０－６１５０２号公報

#### 【発明の概要】

#### 【発明が解決しようとする課題】

20

#### 【００１２】

ガラス板の一方の主面の上に行配線および列配線が配置されるガラス片面２層構造を有するタッチパネルにおいては、行配線と列配線との間に平面的に相互容量が生じ、指等の指示体との容量結合が検出され、位置座標が特定される。また、ガラス片面２層構造を有するタッチパネルにおいては、行配線と列配線との間のカップリングが強いため、行配線および列配線から離れた位置に十分な電界を発生させることが困難である。このことは、行配線および列配線から指示体までの距離が長い場合に、相互容量の変化を検出することを困難にし、タッチ位置を示す位置座標の特定を困難にする。この問題は、行配線および列配線が配置される主面を有する板がガラス以外からなる場合、第１の電極が行配線とは言い難い構造を有する配線を備える場合、第２の電極が列配線とは言い難い構造を有する配線を備える場合等においても生じる。

30

#### 【００１３】

一方で、近年においては、タッチパネルの用途が多様になり、より高い堅牢性をタッチパネルに付与するために従来よりも厚い保護板を採用すること、スキーグローブ等の厚い手袋が装着された手の指等による指示を可能にすること等が求められている。このため、第１の電極および第２の電極から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチ位置を示す位置座標を特定できるようにすることが必要になっている。

#### 【００１４】

本発明は、この問題を解決するためになされる。本発明が解決しようとする課題は、電極から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチ位置を示す位置座標を特定できるようにすることである。

40

#### 【課題を解決するための手段】

#### 【００１５】

本発明は、タッチスクリーン、当該タッチスクリーンを備えるタッチパネルならびに当該タッチパネルを備える表示装置および電子機器に向けられる。

#### 【００１６】

タッチスクリーンは、第１の電極、絶縁膜および第２の電極を備える。第１の電極、絶縁膜および第２の電極は、基板の主面の上に配置される。第２の電極は、絶縁膜により第１の電極から絶縁される。

#### 【００１７】

50

第 1 の電極は、第 1 の複数の配線を備え、第 2 の電極は、第 2 の複数の配線を備える。第 1 の複数の配線は、検出配線である。第 2 の複数の配線は、励起配線である。第 1 の複数の配線が励起配線であり第 2 の複数の配線が検出配線であることも許される。

【 0 0 1 8 】

第 1 の複数の配線の各々は、第 1 の線状部および第 1 の複数の枝分かれ部を備える。第 1 の線状部は、第 1 の方向に延在する。第 1 の複数の枝分かれ部は、第 1 の線状部から枝分かれする。

【 0 0 1 9 】

第 2 の複数の配線の各々は、第 2 の線状部および第 2 の複数の枝分かれ部を備える。第 2 の線状部は、第 1 の方向と平行をなさない第 2 の方向に延在する。第 2 の複数の枝分かれ部は、第 2 の線状部から枝分かれする。

【 0 0 2 0 】

第 2 の線状部は、第 1 の線状部と立体交差するが、第 1 の複数の枝分かれ部と立体交差しない。

【 0 0 2 1 】

第 2 の複数の枝分かれ部の各々は、縁部を備える。第 2 の複数の枝分かれ部の各々には、第 2 の線状部および縁部に囲まれる空洞部が形成される。縁部は、基板の主面と垂直をなす方向から平面視された場合に第 1 の線状部または第 1 の複数の枝分かれ部の輪郭に沿って並行する部分を有するが、第 2 の線状部の輪郭に沿って並行する部分を有しない。

第 1 の複数の枝分かれ部の各々は、第 2 の方向に延在し第 1 の幅を有する第 1 の延在部を備え、第 2 の複数の枝分かれ部の各々は、第 2 の方向に延在し第 1 の幅と同じ第 2 の幅を有する第 2 の延在部を備える。

【 発明の効果 】

【 0 0 2 2 】

本発明によれば、励起配線と検出配線との間の結合容量が小さくなり、指示体と励起配線および検出配線との間の結合容量が大きくなる。また、励起配線または検出配線とグラウンドとの間の接地容量が減少する。これらにより、電極から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチが行われたタッチ位置を示す位置座標を特定できるようになる。

【 0 0 2 3 】

この発明の目的、特徴、局面、および利点は、以下の詳細な説明と添付図面とによって、より明白となる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 4 】

【 図 1 】実施の形態 1 のタッチスクリーンを図示する斜視図である。

【 図 2 】実施の形態 1 のタッチスクリーンを図示する断面図である。

【 図 3 】実施の形態 1 のタッチスクリーンを図示する平面図である。

【 図 4 】実施の形態 1 のタッチスクリーンに備えられる上部電極および下部電極を図示する拡大平面図である。

【 図 5 】実施の形態 2 の上部電極および下部電極を図示する拡大平面図である。

【 図 6 】実施の形態 2 の上部電極および下部電極に望ましくは付加されるダミーパターンを図示する拡大平面図である。

【 図 7 】実施の形態 3 の上部電極および下部電極を図示する拡大平面図である。

【 図 8 】参考例の上部電極および下部電極を図示する拡大平面図である。

【 図 9 】実施の形態 1 のタッチスクリーンを備える表示装置を図示する断面図である。

【 図 10 】実施の形態 1 のタッチスクリーンに備えられる上部電極および下部電極をそれぞれ参考例の上部電極および下部電極に置き換えることにより得られるタッチスクリーンを備える表示装置を図示する断面図である。

【 図 11 】上部電極および下部電極のパターンが図 4、5 および 8 の各々に示されるもの

である場合について透明基板の厚みによるタッチ容量の変化を示すグラフである。

【図 1 2】上部電極および下部電極のパターンが図 4、5 および 8 の各々に示されるものである場合について透明基板の厚みによる接地容量の変化を示すグラフである。

【図 1 3】上部電極および下部電極のパターンが図 4、5 および 8 の各々に示されるものである場合について透明基板の厚みによる改善効果の変化を示すグラフである。

【図 1 4】実施の形態 4 のタッチパネルを図示する平面図である。

【図 1 5】実施の形態 5 の表示装置を図示する断面図である。

【図 1 6】実施の形態 6 の電子機器を図示するブロック図である。

【発明を実施するための形態】

【0025】

10

1 実施の形態 1

1.1 序

実施の形態 1 は、タッチスクリーンに関する。

【0026】

1.2 タッチスクリーンの積層構造

図 1、2 および 3 の模式図は、それぞれ実施の形態 1 のタッチスクリーンを図示する斜視図、断面図および平面図である。

【0027】

図 1、2 および 3 に図示されるタッチスクリーン 1000 は、指等の指示体によりタッチが行われたタッチ位置を検出する装置である。タッチスクリーン 1000 は、投影型静電容量方式によりタッチ位置を検出できるように構成される。

20

【0028】

図 1 および 2 に図示されるように、タッチスクリーン 1000 は、透明基板 1020、下部電極 1021、層間絶縁膜 1022、上部電極 1023、保護膜 1024、粘着剤層 1025 および透明基板 1026 を備える。タッチスクリーン 1000 がこれらの構成物以外の構成物を備えてもよい。

【0029】

透明基板 1026 の一方の主面 1040 は、下部電極 1021、層間絶縁膜 1022、上部電極 1023、保護膜 1024 および粘着剤層 1025 を挟んで透明基板 1020 の一方の主面 1060 と対向する。下部電極 1021 は、透明基板 1020 の一方の主面 1060 の上に配置される。層間絶縁膜 1022 は、下部電極 1021 に重ねて透明基板 1020 の一方の主面 1060 の上に配置され、下部電極 1021 の全体を被覆する。上部電極 1023 は、下部電極 1021 および層間絶縁膜 1022 に重ねて透明基板 1020 の一方の主面 1060 の上に配置される。保護膜 1024 は、下部電極 1021、層間絶縁膜 1022 および上部電極 1023 に重ねて透明基板 1020 の一方の主面 1060 の上に配置され、上部電極 1023 の全体を被覆する。粘着剤層 1025 は、下部電極 1021、層間絶縁膜 1022、上部電極 1023 および保護膜 1024 に重ねて透明基板 1020 の一方の主面 1060 の上に配置される。これにより、下部電極 1021、層間絶縁膜 1022、上部電極 1023、保護膜 1024 および粘着剤層 1025 が、透明基板 1020 の一方の主面 1060 と透明基板 1026 の一方の主面 1040 との間に保持され、最下層に配置される透明基板 1020 により支持され、最上層に配置される透明基板 1026 により保護される。また、上部電極 1023 が層間絶縁膜 1022 により下部電極 1021 から絶縁される。

30

40

【0030】

1.3 下部電極および上部電極の配置

図 1、2 および 3 に図示されるように、下部電極 1021 は、行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 を備え、上部電極 1023 は、列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 を備える。6 本の行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 が 5 本以下または 7 本以上の行方向配線に置き換えられてもよい。8

50

本の列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 が 7 本以下または 9 本以上の列方向配線に置き換えられてもよい。

【0031】

行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 の各々は、行方向に延在する。行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 は、列方向に配列される。列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 の各々は、列方向に延在する。列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 は、行方向に配列される。行方向は、透明基板 1020 の一方の主面 1060 と平行をなす方向である。列方向は、透明基板 1020 の一方の主面 1060 と平行をなし行方向と垂直をなす方向である。

10

【0032】

タッチスクリーン 1000 は、指示体によりタッチが行われたことを検出できる検出可能エリアを有する。検出可能エリアは、マトリクス状に配列される複数のセンサー部を備えるマトリクス領域である。図 3 には、当該複数のセンサー部に含まれる 1 個のセンサー部を示す矩形 1120 が描かれている。行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 ならびに列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 は、検出可能エリアに配置される。複数のセンサー部は、各行に 1 本の行方向配線が配置され各列に 1 本の列方向配線が配置されるように配列される。このため、複数のセンサー部の各々には、1 本の列方向配線と 1 本の行方向配線との交差点が配置される。

20

【0033】

列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 の各々は、透明基板 1020 の一方の主面 1060 の法線方向から平面視された場合に行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 の各々と交差するが、層間絶縁膜 1022 により行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 の各々から透明基板 1020 の一方の主面 1060 の法線方向に離される。したがって、列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 の各々は、行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 の各々と立体交差し、層間絶縁膜 1022 により行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 の各々から隔てられ、層間絶縁膜 1022 により行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 の各々から絶縁される。

30

【0034】

各々が行方向に延在する行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 が、各々が行方向と異なる方向に延在する配線に置き換えられてもよい。各々が列方向に延在する列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 が、各々が列方向と異なる方向に延在する配線に置き換えられてもよい。ただし、後者の配線の各々が延在する方向は、前者の配線の各々が延在する平行をなさない。

40

【0035】

下層に配置される下部電極 1021 および上層に配置される上部電極 1023 が、同一の層に配置される一方の電極および他方の電極にそれぞれ置き換えられてもよい。この場合は、下部電極 1021 が配置される下層と上部電極 1023 が配置される上層との間の絶縁を担う層間絶縁膜 1022 が、一方の電極のうちの他方の電極と立体交差する部分のみを被覆する絶縁膜に置き換えられる。

【0036】

1.4 材質

透明基板 1020 および 1026 は、透明なガラス材料または樹脂材料からなり、透光性を有する。透明基板 1020 および 1026 が他の材料からなることも許される。例え

50

ば、透明基板 1020 および 1026 がセラミックス材料または単結晶材料からなることも許される。タッチスクリーン 1000 がタッチパッドに内蔵される場合等の光にタッチスクリーン 1000 を透過させる必要がない場合は、透明基板 1020 および 1026 が非透明基板に置き換えられてもよい。

#### 【0037】

行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 の各々は、多層構造を備え、列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 の各々は、多層構造を備える。多層構造は、アルミニウム系合金層および窒化物層を備える。多層構造がこれらの層以外の層を備えてもよい。アルミニウム系合金層および窒化物層は、積層される。アルミニウム系合金層は、アルミニウム系合金からなる。窒化物層は、アルミニウム系合金の窒化物からなる。多層構造により、励起配線および検出配線の電気抵抗が小さくなり、検出可能エリアにおける光の反射率が小さくなる。アルミニウム系合金層が他の導電材料からなる層に置き換えられてもよく、窒化物層が当該他の導電材料の窒化物からなる層に置き換えられてもよい。例えば、アルミニウム系合金層が、アルミニウム、銅等の金属配線材料または銅系合金等のアルミニウム系合金以外の合金配線材料からなる層に置き換えられてもよい。

10

#### 【0038】

行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 の各々が単層構造を備えてもよく、列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 の各々が単層構造を備えてもよい。単層構造は酸化インジウムスズ (ITO) 等の透明配線材料、アルミニウム、銅等の金属配線材料またはアルミニウム系合金、銅系合金等の合金配線材料からなる。

20

#### 【0039】

層間絶縁膜 1022 および保護膜 1024 は、シリコン窒化物またはシリコン酸化物からなり、透光性および絶縁性を有し、透明な絶縁膜となっている。層間絶縁膜 1022 および保護膜 1024 が他の絶縁材料からなることも許される。

#### 【0040】

粘着剤層 1025 は、粘着剤からなる。粘着剤からなる粘着剤層 1025 が接着剤からなる接着剤層に置き換えられてもよい。

#### 【0041】

##### 1.5 タッチ位置の特定の仕組み

行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 は、励起配線である。列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 は、検出配線である。行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 が検出配線であり列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 が励起配線であることも許される。

30

#### 【0042】

透明基板 1026 の他方の主面 1140 に指示体によりタッチが行われた場合は、指示体と行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 もしくは 1085 または列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 もしくは 1107 との間に容量結合すなわちタッチ容量が発生する。相互容量方式が採用される場合は、タッチ容量が発生したことに起因する、行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 または 1085 と列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 または 1107 との間の相互容量の変化が検出され、検出可能エリアのどの位置にタッチが行われたのかが特定される。

40

#### 【0043】

##### 1.6 引き出し配線、ダミー引き出し配線および端子の配置

図 3 に図示されるように、タッチスクリーン 1000 は、引き出し配線 1160、1161、1162、1163、1164 および 1165、引き出し配線 1180、1181

50

、１１８２、１１８３、１１８４、１１８５、１１８６および１１８７、ダミー引き出し配線１２００ならびに端子１２２０をさらに備える。

【００４４】

行方向配線１０８０、１０８１、１０８２、１０８３、１０８４および１０８５は、それぞれ引き出し配線１１６０、１１６１、１１６２、１１６３、１１６４および１１６５により端子１２２０に電氣的に接続される。列方向配線１１００、１１０１、１１０２、１１０３、１１０４、１１０５、１１０６および１１０７は、それぞれ引き出し配線１１８０、１１８１、１１８２、１１８３、１１８４、１１８５、１１８６および１１８７により端子１２２０に電氣的に接続される。端子１２２０には、外部の配線が電氣的に接続される。ダミー引き出し配線１２００は、引き出し配線１１６５と引き出し配線１１８７との間に配置される。

10

【００４５】

引き出し配線１１６０、１１６１、１１６２、１１６３、１１６４および１１６５ならびに引き出し配線１１８０、１１８１、１１８２、１１８３、１１８４、１１８５、１１８６および１１８７は、検出可能エリアの外縁部に詰めて配置される。引き出し配線１１６０、１１６１、１１６２、１１６３、１１６４および１１６５においては、最も短い引き出し配線１１６５が最も内側に配置され、残余の引き出し配線１１６０、１１６１、１１６２、１１６３および１１６４が引き出し配線１１６５に沿って配置される。引き出し配線１１８０、１１８１、１１８２、１１８３、１１８４、１１８５、１１８６および１１８７においては、最も短い引き出し配線１１８３が基準となり、残余の引き出し配線１１８０、１１８１、１１８２、１１８４、１１８５、１１８６および１１８７が引き出し配線１１８３に沿って配置される。

20

【００４６】

１．７ 上部電極および下部電極の平面形状

図４の模式図は、実施の形態１のタッチスクリーンに備えられる上部電極および下部電極を図示する拡大平面図である。

【００４７】

図４には、３行３列を構成する９個のセンサー部を含む領域が図示される。図４には、１個のセンサー部を示す矩形１１２０が描かれている。

【００４８】

図４に図示されるように、列方向配線１１００、１１０１、１１０２、１１０３、１１０４、１１０５、１１０６および１１０７の各々は、線状部１２２０を備え、各繰返し単位が枝分かれ部１２４０、１２４１、１２４２、１２４３、１２４４および１２４５を備える複数の繰返し単位を備える。当該複数の繰返し単位は、列方向に規則的に配列される。線状部１２２０は、列方向に延在する。枝分かれ部１２４０、１２４１および１２４２は、線状部１２２０から一方の側に枝分かれし、それぞれ行方向に延在する延在部１２６０、１２６１および１２６２を備える。枝分かれ部１２４３、１２４４および１２４５は、線状部１２２０から他方の側に枝分かれし、それぞれ行方向に延在する延在部１２６３、１２６４および１２６５を備える。線状部１２２０は、列方向に配列される６個のセンサー部に渡って配置される。枝分かれ部１２４０、１２４２、１２４３および１２４５の各々は、１個のセンサー部に収まるように配置される。枝分かれ部１２４１および１２４４の各々は、列方向に隣接する２個のセンサー部に跨るように配置される。

30

40

【００４９】

行方向配線１０８０、１０８１、１０８２、１０８３、１０８４および１０８５の各々は、線状部１２８０を備え、各繰返し単位が枝分かれ部１３００および１３０１を備える複数の繰返し単位を備える。当該複数の繰返し単位は、行方向に規則的に配列される。線状部１２８０は、行方向に延在する。枝分かれ部１３００は、線状部１２８０から一方の側に枝分かれし、列方向に延在する延在部１３２０および行方向に延在する延在部１３２１を備える。枝分かれ部１３０１は、線状部１２８０から他方の側に枝分かれし、列方向に延在する延在部１３２２および行方向に延在する延在部１３２３を備える。線状

50

部 1 2 8 0 は、行方向に配列される 8 個のセンサー部に渡って配置される。枝分かれ部 1 3 0 0 および 1 3 0 1 の各々は、行方向に隣接する 2 個のセンサー部に跨るように配置される。

【 0 0 5 0 】

列方向に延在する線状部 1 2 2 0 が列方向と異なる方向に延在する線状部に置き換えられてもよい。行方向に延在する線状部 1 2 8 0 が行方向以外の方向に延在する線状部に置き換えられてもよい。ただし、後者の線状部が延在する方向は、前者の線状部が延在する方向と平行をなさない。

【 0 0 5 1 】

帯状の平面形状を有する枝分かれ部 1 2 4 0、1 2 4 1、1 2 4 2、1 2 4 3、1 2 4 4 および 1 2 4 5 が他の平面形状を有する枝分かれ部に置き換えられてもよい。T 字型分岐を含む帯状の平面形状を有する枝分かれ部 1 3 0 0 および 1 3 0 1 が他の平面形状を有する枝分かれ部に置き換えられてもよい。

【 0 0 5 2 】

線状部 1 2 8 0 は、線状部 1 2 2 0 と立体交差するが、枝分かれ部 1 2 4 0、1 2 4 1、1 2 4 2、1 2 4 3、1 2 4 4 および 1 2 4 5 と立体交差しない。線状部 1 2 8 0 が線状部 1 2 2 0 と立体交差するため、線状部 1 2 8 0 は立体交差位置において線状部 1 2 2 0 に接触しないように線状部 1 2 2 0 から透明基板 1 0 2 0 の一方の主面 1 0 6 0 の法線方向に離される。

【 0 0 5 3 】

枝分かれ部 1 3 0 0 および 1 3 0 1 は、それぞれ縁部 1 3 4 0 および 1 3 4 1 を備える。縁部 1 3 4 0 および 1 3 4 1 は、それぞれ枝分かれ部 1 3 0 0 および 1 3 0 1 の輪郭に沿う。枝分かれ部 1 3 0 0 には、縁部 1 3 4 0 および線状部 1 2 8 0 に囲まれる空洞部 1 3 6 0 が形成される。枝分かれ部 1 3 0 1 には、縁部 1 3 4 1 および線状部 1 2 8 0 に囲まれる空洞部 1 3 6 1 が形成される。縁部 1 3 4 0 および 1 3 4 1 には、電気伝導性を有するパターンが設けられるが、空洞部 1 3 6 0 および 1 3 6 1 には、電気伝導性を有するパターンが設けられない。縁部 1 3 4 0 および 1 3 4 1 は、透明基板 1 0 2 0 の一方の主面 1 0 6 0 の法線方向から平面視された場合に、線状部 1 2 2 0、枝分かれ部 1 2 4 0、枝分かれ部 1 2 4 1、枝分かれ部 1 2 4 2、枝分かれ部 1 2 4 3、枝分かれ部 1 2 4 4 または枝分かれ部 1 2 4 5 の輪郭に沿って並行する部分を有するが、線状部 1 2 8 0 の輪郭に沿って並行する部分を有しない。縁部が輪郭に沿って並行するというのは、輪郭と平行をなし輪郭から間隙をおいて配置されるように縁部が延在することをいう。縁部 1 3 4 0 においては、線状部 1 2 2 0、枝分かれ部 1 2 4 0、枝分かれ部 1 2 4 1、枝分かれ部 1 2 4 2、枝分かれ部 1 2 4 3、枝分かれ部 1 2 4 4 または枝分かれ部 1 2 4 5 の輪郭に沿って並行する部分が、縁部 1 3 4 0 の主要部分であり、望ましくは縁部 1 3 4 0 の半分以上を占める。縁部 1 3 4 1 においては、線状部 1 2 2 0、枝分かれ部 1 2 4 0、枝分かれ部 1 2 4 1、枝分かれ部 1 2 4 2、枝分かれ部 1 2 4 3、枝分かれ部 1 2 4 4 または枝分かれ部 1 2 4 5 の輪郭に沿って並行する部分が、縁部 1 3 4 1 の主要部分であり、望ましくは縁部 1 3 4 1 の半分以上を占める。

【 0 0 5 4 】

縁部 1 3 4 0 および 1 3 4 1 が線状部 1 2 2 0、枝分かれ部 1 2 4 0、枝分かれ部 1 2 4 1、枝分かれ部 1 2 4 2、枝分かれ部 1 2 4 3、枝分かれ部 1 2 4 4 または枝分かれ部 1 2 4 5 の輪郭に沿って並行する部分を有することにより、励起配線から検出配線までの距離が短くなり、励起配線と検出配線との間に容量が形成され、導体である指示体によりタッチが行われた場合の容量の変化によりタッチ位置を示す位置座標が特定される。

【 0 0 5 5 】

また、枝分かれ部 1 3 0 0 および 1 3 0 1 にそれぞれ空洞部 1 3 6 0 および 1 3 6 1 が形成されることにより、励起配線と検出配線との間の結合容量が小さくなり、指示体と励起配線および検出配線との間の結合容量が大きくなる。また、励起配線とグランドとの間の接地容量が小さくなる。これらにより、励起配線および検出配線から指示体までの距離

10

20

30

40

50

が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチ位置を示す位置座標を特定できる。この点については、「５ 実施の形態１と参考例との対比」の欄において詳細に説明する。

#### 【００５６】

延在部１２６０、１２６１、１２６２、１２６３、１２６４および１２６５の幅Ｗ１は、延在部１３２１および１３２３の幅Ｗ２と同じである。延在部１２６０、１２６１、１２６２、１２６３、１２６４、１２６５、１３２１および１３２３の各々である各延在部の幅は、各延在部が延在する方向と垂直をなす方向の各延在部の大きさである。

#### 【００５７】

#### ２ 実施の形態２

実施の形態２は、実施の形態１のタッチスクリーンに備えられる上部電極および下部電極をそれぞれ置き換える上部電極および下部電極に関する。

10

#### 【００５８】

図５は、実施の形態２の上部電極および下部電極を図示する拡大平面図である。

#### 【００５９】

実施の形態１と実施の形態２との主な相違は、実施の形態１においては幅Ｗ１が幅Ｗ２と同じあるが、実施の形態２においては幅Ｗ１が幅Ｗ２より狭い点にある。

#### 【００６０】

図５に図示される上部電極２０２３は、列方向配線２１０３、２１０４、２１０５等を備える。図５に図示される下部電極２０２１は、行方向配線２０８１、２０８２、２０８３等を備える。

20

#### 【００６１】

列方向配線２１０３、２１０４、２１０５等の各々は、線状部２２２０を備え、各繰り返し単位が枝分かれ部２２４０、２２４１、２２４２、２２４３、２２４４および２２４５を備える複数の繰り返し単位を備える。線状部２２２０は、列方向に延在する。枝分かれ部２２４０、２２４１および２２４２は、線状部２２２０から一方の側に枝分かれし、それぞれ行方向に延在する延在部２２６０、２２６１および２２６２を備える。枝分かれ部２２４３、２２４４および２２４５は、線状部２２２０から他方の側に枝分かれし、それぞれ行方向に延在する延在部２２６３、２２６４および２２６５を備える。

#### 【００６２】

行方向配線２０８１、２０８２、２０８３等の各々は、線状部２２８０を備え、各繰り返し単位が枝分かれ部２３００および２３０１を備える複数の繰り返し単位を備える。線状部２２８０は、行方向に延在する。枝分かれ部２３００は、線状部２２８０から一方の側に枝分かれし、列方向に延在する延在部２３２０および行方向に延在する延在部２３２１を備える。枝分かれ部２３０１は、線状部２２８０から他方の側に枝分かれし、列方向に延在する延在部２３２２および行方向に延在する延在部２３２３を備える。

30

#### 【００６３】

線状部２２８０は、線状部２２２０と立体交差するが、枝分かれ部２２４０、２２４１、２２４２、２２４３、２２４４および２２４５と立体交差しない。

#### 【００６４】

枝分かれ部２３００および２３０１は、それぞれ縁部２３４０および２３４１を備える。枝分かれ部２３００には、縁部２３４０および線状部２２８０に囲まれる空洞部２３６０が形成される。枝分かれ部２３０１には、縁部２３４１および線状部２２８０に囲まれる空洞部２３６１が形成される。縁部２３４０および２３４１は、透明基板１０２０の一方の主面１０６０の法線方向から平面視された場合に、線状部２２２０、枝分かれ部２２４０、枝分かれ部２２４１、枝分かれ部２２４２、枝分かれ部２２４３、枝分かれ部２２４４または枝分かれ部２２４５の輪郭に沿って並行する部分を有するが、線状部２２８０の輪郭に沿って並行する部分を有しない。

40

#### 【００６５】

縁部２３４０および２３４１が線状部２２２０、枝分かれ部２２４０、枝分かれ部２２４１、枝分かれ部２２４２、枝分かれ部２２４３、枝分かれ部２２４４または枝分かれ部

50

2 2 4 5 の輪郭に沿って並行する部分を有することにより、励起配線から検出配線までの距離が短くなり、励起配線と検出配線との間に容量が形成され、指示体によりタッチが行われた場合の容量の変化によりタッチ位置を示す位置座標が特定される。

【 0 0 6 6 】

また、枝分かれ部 2 3 0 0 および 2 3 0 1 にそれぞれ空洞部 2 3 6 0 および 2 3 6 1 が形成されることにより、励起配線と検出配線との間の結合容量が小さくなり、指示体と励起配線および検出配線との間の結合容量が大きくなる。また、励起配線とグランドとの間の接地容量が小さくなる。これらにより、励起配線および検出配線から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチ位置を示す位置座標を特定できるようになる。

10

【 0 0 6 7 】

延在部 2 2 6 0、2 2 6 1、2 2 6 2、2 2 6 3、2 2 6 4 および 2 2 6 5 の幅 W 1 は、延在部 2 3 2 1 および 2 3 2 3 の幅 W 2 より狭くなっている。例えば、幅 W 1 は、幅 W 2 の 1 / 2 となっている。幅 W 1 を幅 W 2 より狭くすることにより、延在部 2 2 6 0、2 2 6 1、2 2 6 2、2 2 6 3、2 2 6 4 および 2 2 6 5 と延在部 2 3 2 1 および 2 3 2 3 との間に生じる電界が延在部 1 2 6 0、1 2 6 1、1 2 6 2、1 2 6 3、1 2 6 4 および 1 2 6 5 と延在部 1 3 2 1 および 1 3 2 3 との間に生じる電界と異なるものになり、前者の電界が到達する位置が後者の電界が到達する位置と異なるものになる。このことは、透明基板 1 0 2 6 の厚さに応じて幅 W 1 に対する幅 W 2 の比を調整することにより、タッチ容量を大きくすることができ、タッチ位置の検出能力を向上できることを意味する。この点については、「6 実施の形態 1 と実施の形態 2 と参考例との対比」の欄において詳細に説明する。

20

【 0 0 6 8 】

図 6 は、実施の形態 2 の上部電極および下部電極に望ましくは付加されるダミーパターンを図示する拡大平面図である。

【 0 0 6 9 】

図 6 に示されるダミーパターン 2 4 0 0 は、空洞部 2 3 6 0 および 2 3 6 1 ならびに上部電極 2 0 2 3 と下部電極 2 0 2 1 との間隙を埋める。ダミーパターン 2 4 0 0 は、絶縁体からなり、上部電極 2 0 2 3 および下部電極 2 0 2 1 と電気的に導通しない。ダミーパターン 2 4 0 0 により、上部電極 2 0 2 3 の輪郭および下部電極 2 0 2 1 の輪郭を視認しにくくなり、見栄えのよいタッチスクリーンが得られる。ダミーパターン 2 4 0 0 は、実施の形態 2 の利点を失わせない。

30

【 0 0 7 0 】

先述した実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0 に備えられる上部電極 1 0 2 3 および下部電極 1 0 2 1 に同様のダミーパターンが付加されてもよく、後述する実施の形態 3 の上部電極および下部電極に同様のダミーパターンが付加されてもよい。

【 0 0 7 1 】

3 実施の形態 3

実施の形態 3 は、実施の形態 1 のタッチスクリーンに備えられる上部電極および下部電極をそれぞれ置き換える上部電極および下部電極に関する。

40

【 0 0 7 2 】

図 7 の模式図は、実施の形態 3 の上部電極および下部電極を図示する拡大平面図である。

【 0 0 7 3 】

図 7 に図示される上部電極 3 0 2 3 は、列方向配線 3 1 0 3、3 1 0 4、3 1 0 5 等を備える。図 7 に図示される下部電極 3 0 2 1 は、行方向配線 3 0 8 1、3 0 8 2、3 0 8 3 等を備える。

【 0 0 7 4 】

列方向配線 3 1 0 3、3 1 0 4、3 1 0 5 等の各々は、線状部 3 2 2 0 を備え、各繰り返し単位が枝分かれ部 3 2 4 0、3 2 4 1、3 2 4 2、3 2 4 3、3 2 4 4 および 3 2 4

50

5を備える複数の繰返し単位を備える。線状部3220は、列方向に延在する。枝分かれ部3240は、線状部3220から一方の側に枝分かれし、行方向から45°傾斜した方向に延在する延在部3260を備える。枝分かれ部3241は、線状部3220から一方の側に枝分かれし、行方向に延在する延在部3261を備える。枝分かれ部3242は、線状部3220から一方の側に枝分かれし、行方向から45°傾斜した方向に延在する延在部3262を備える。延在部3262は、延在部3261について延在部3260と対称をなす。枝分かれ部3243は、線状部3220から他方の側に枝分かれし、行方向から45°傾斜した方向に延在する延在部3263を備える。枝分かれ部3244は、線状部3220から他方の側に枝分かれし、行方向に延在する延在部3264を備える。枝分かれ部3245は、線状部3220から他方の側に枝分かれし、行方向から45°傾斜した方向に延在する延在部3265を備える。延在部3265は、延在部3264について延在部3263と対称をなす。

10

#### 【0075】

行方向配線3081、3082、3083等の各々は、線状部3280を備え、各繰返し単位が枝分かれ部3300、3301、3302、3303、3304、3305、3306および3307を備える複数の繰返し単位を備える。線状部3280は、行方向に延在する。枝分かれ部3300、3301、3302および3303の各々は、線状部3280から一方の側に枝分かれする。枝分かれ部3304、3305、3306および3307の各々は、線状部3280から他方の側に枝分かれする。

#### 【0076】

20

線状部3280は、線状部3220と立体交差するが、枝分かれ部3240、3241、3242、3243、3244および3245と立体交差しない。

#### 【0077】

枝分かれ部3300、3301、3302、3303、3304、3305、3306および3307は、それぞれ縁部3340、3341、3342、3343、3344、3345、3346および3347を備える。枝分かれ部3300には、縁部3340および線状部3280に囲まれる空洞部3360が形成される。枝分かれ部3301には、縁部3341および線状部3280に囲まれる空洞部3361が形成される。枝分かれ部3302には、縁部3342および線状部3280に囲まれる空洞部3362が形成される。枝分かれ部3303には、縁部3343および線状部3280に囲まれる空洞部3363が形成される。枝分かれ部3304には、縁部3344および線状部3280に囲まれる空洞部3364が形成される。枝分かれ部3305には、縁部3345および線状部3280に囲まれる空洞部3365が形成される。枝分かれ部3306には、縁部3346および線状部3280に囲まれる空洞部3366が形成される。枝分かれ部3307には、縁部3347および線状部3280に囲まれる空洞部3367が形成される。縁部3340、3341、3342、3343、3344、3345、3346および3347には、電気伝導性を有するパターンが設けられるが、空洞部3360、3361、3362、3363、3364、3365、3366および3367には、電気伝導性を有するパターンが設けられない。縁部3340、3341、3342、3343、3344、3345、3346および3347は、透明基板1020の一方の主面1060の法線方向から平面視された場合に、線状部3220、枝分かれ部3240、枝分かれ部3241、枝分かれ部3242、枝分かれ部3243、枝分かれ部3244または枝分かれ部3245の輪郭に沿って並行する部分を有するが、線状部3280の輪郭に沿って並行する部分を有しない。

30

40

#### 【0078】

実施の形態1においては枝分かれ部1240、1241、1242、1243、1244、1245、1300および1301が矩形状のパターンを有するのに対して実施の形態3においては枝分かれ部3240、3241、3242、3243、3244、3245、3300、3301、3302、3303、3304、3305、3306および3307が異形状のパターンを有するが、実施の形態3においても実施の形態1と同様に、

50

励起配線および検出配線から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチ位置を示す位置座標を特定できる。実施の形態3においても、透明基板1026の厚さに応じて枝分かれ部3240、3241、3242、3243、3244および3245の幅を調整することにより、タッチ容量を大きくすることができ、タッチ位置の検出能力を向上できる。

#### 【0079】

異形状のパターンを有する枝分かれ部3240、3241、3242、3243、3244、3245、3300、3301、3302、3303、3304、3305、3306および3307が、さらに別の異形状のパターンを有する枝分かれ部に置き換えられてもよい。すなわち、枝分かれ部のパターンによらず、枝分かれ部に空洞部を形成することにより、励起配線および検出配線から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチ位置を示す位置座標を特定できる。

10

#### 【0080】

##### 4 参考例

図8の模式図は、実施の形態1の上部電極および下部電極と対比される、参考例の上部電極および下部電極を図示する拡大平面図である。

#### 【0081】

実施の形態1と参考例との相違は、実施の形態1においては枝分かれ部1300および1301にそれぞれ空洞部1360および1361が形成されるが、参考例においては枝分かれ部9300および9301に空洞部が形成されない点にある。

20

#### 【0082】

図8に図示される上部電極9023は、列方向配線9103、9104、9105等を備える。図8に図示される下部電極9021は、行方向配線9081、9082、9083等を備える。

#### 【0083】

列方向配線9103、9104、9105等の各々は、線状部9220を備え、各繰り返し単位が枝分かれ部9240、9241、9242、9243、9244および9245を備える複数の繰り返し単位を備える。線状部9220は、列方向に延在する。枝分かれ部9240、9241および9242は、線状部9220から一方の側に枝分かれする。枝分かれ部9243、9244および9245は、線状部9220から他方の側に枝分かれする。

30

#### 【0084】

行方向配線9081、9082、9083等の各々は、線状部9280を備え、各繰り返し単位が枝分かれ部9300および9301を備える複数の繰り返し単位を備える。線状部9280は、行方向に延在する。枝分かれ部9300は、線状部9280から一方の側に枝分かれする。枝分かれ部9301は、線状部9280から他方の側に枝分かれする。

#### 【0085】

線状部9280は、線状部9220と立体交差するが、枝分かれ部9240、9241、9242、9243、9244および9245と立体交差しない。

40

#### 【0086】

枝分かれ部9300および9301は、それぞれ縁部9340および9341を備える。しかし、参考例においては、枝分かれ部9300および9301に空洞部が形成されず、枝分かれ部9300および9301の全体に電気伝導性を有するパターンが設けられる。縁部9340および9341は、透明基板1020の一方の主面1060の法線方向から平面視された場合に、線状部9220、枝分かれ部9240、枝分かれ部9241、枝分かれ部9242、枝分かれ部9243、枝分かれ部9244または枝分かれ部9245の輪郭に沿って並行する部分を有するが、線状部9280の輪郭に沿って並行する部分を有しない。

#### 【0087】

50

## 5 実施の形態 1 と参考例との対比

図 9 は、実施の形態 1 のタッチスクリーンを備える表示装置を図示する断面図である。

### 【0088】

図 9 に図示される表示装置 1500 は、タッチスクリーン 1000、粘着剤層 1520 および表示素子 1521 を備える。タッチスクリーン 1000 の一方の主面 1540 は、粘着剤層 1520 を介して表示素子 1521 の主面 1560 に貼り付けられる。

### 【0089】

図 9 は、図 4 の切断線 A - A の位置の断面すなわち透明基板 1020 の一方の主面 1060 と垂直をなし枝分かれ部 1241 および 1300 を横切る断面における断面図となっている。図 9 には、検出可能エリアにおいて指 1580 によりタッチスクリーン 1000 の他方の主面 1600 にタッチが行われた場合の電界状況を示す電気力線 1620 が破線で描かれている。

10

### 【0090】

表示装置 1500 においては、枝分かれ部 1300 に空洞部 1360 が形成され、枝分かれ部 1241 の特定の部分 1640 から見て、縁部 1340 の第 2 の部分 1662 が空洞部 1360 により縁部 1340 の第 1 の部分 1660 から隔てられる。第 2 の部分 1662 は、第 1 の部分 1660 と導通する。第 2 の部分 1662 が空洞部 1360 により第 1 の部分 1660 から隔てられることにより、枝分かれ部 1241 の特定の部分 1640 から延びる電気力線 1620 は、枝分かれ部 1300 に到達する場合に、当該特定の部分 1640 に相対的に近い第 1 の部分 1660 および特定の部分 1640 から相対的に遠い第 2 の部分 1662 に集中する。

20

### 【0091】

図 10 は、実施の形態 1 のタッチスクリーンに備えられる上部電極および下部電極をそれぞれ参考例の上部電極および下部電極に置き換えることにより得られるタッチスクリーンを備える表示装置を図示する断面図である。

### 【0092】

図 10 に図示される表示装置 9500 は、タッチスクリーン 9000、粘着剤層 1520 および表示素子 1521 を備える。タッチスクリーン 9000 の一方の主面 9540 は、粘着剤層 1520 を介して表示素子 1521 の主面 1560 に貼り付けられる。

30

### 【0093】

図 10 は、図 8 の切断線 B - B の位置の断面すなわち透明基板 1020 の一方の主面 1060 と垂直をなし枝分かれ部 9241 および 9300 を横切る断面における断面図となっている。図 10 には、検出可能エリアにおいて指 1580 によりタッチスクリーン 9000 の他方の主面 9600 にタッチが行われた場合の電界状況を示す電気力線 9620 が破線で描かれている。

### 【0094】

表示装置 9500 においては、枝分かれ部 9300 に空洞部が形成されない。枝分かれ部 9300 に空洞部が形成されないことにより、枝分かれ部 9241 の特定の部分 9640 から延びる電気力線 9620 は、枝分かれ部 9300 に到達する場合に、枝分かれ部 9300 の全体にまんべんなく広がる。

40

### 【0095】

図 10 に描かれた電気力線 9620 を図 9 に描かれた電気力線 1620 と比較することにより理解されるように、枝分かれ部 1300 に空洞部 1360 が形成される場合は、枝分かれ部 9300 に空洞部が形成されない場合と比較して、電気力線 1620 が密集し、励起配線および検出配線から遠く離れた位置まで電気力線 1620 が到達する。電気力線 1620 が密集していることは、電界が強くなっていることを意味する。このことは、ガウスの法則から理解できる。

### 【0096】

したがって、枝分かれ部 1300 に空洞部 1360 が形成される場合は、励起配線と検

50

出配線との間の結合容量が小さくなり、励起配線および検出配線から遠く離れた位置における電界が強くなり、指 1 5 8 0 によるタッチが行われた場合の励起配線と検出配線との間の容量の変化が大きくなる。また、枝分かれ部 1 3 0 0 に空洞部 1 3 6 0 が形成される場合は、励起配線と表示素子との間の容量が小さくなり、指 1 5 8 0 によるタッチが行われた場合の励起配線と検出配線との間の容量の変化が大きくなる。これらにより、透明基板 1 0 2 6 が厚い場合であってもタッチ位置を示す位置座標を検出可能になる。

【 0 0 9 7 】

#### 6 実施の形態 1 と実施の形態 2 と参考例との比較

図 1 1 は、上部電極および下部電極のパターンが図 4、5 および 8 の各々に示されるものである場合について透明基板の厚みによるタッチ容量の変化を示すグラフである。図 1 2 は、上部電極および下部電極のパターンが図 4、5 および 8 の各々に示されるものである場合について透明基板の厚みによる接地容量の変化を示すグラフである。図 1 3 は、上部電極および下部電極のパターンが図 4、5 および 8 の各々に示されるものである場合について透明基板の厚みによる改善効果の変化を示すグラフである。

【 0 0 9 8 】

図 1 1、1 2 および 1 3 は、シミュレーションにより得られた。シミュレーションにおいては、透明基板 1 0 2 6 がガラス材料からなるものとし、透明基板 1 0 2 6 の厚みを 1 . 0 mm、2 . 0 mm、5 . 0 mm および 2 0 . 0 mm とし、タッチを行う指の径を 7 . 0 mm とした。図 1 3 に示される改善効果は、タッチ容量および接地容量を考慮した座標検出の改善効果である。

【 0 0 9 9 】

図 1 3 に示されるように、上部電極および下部電極のパターンが図 4 に示されるものである場合は、上部電極および下部電極のパターンが図 8 に示されるものである場合と比較して、透明基板 1 0 2 6 の厚さが 2 0 . 0 mm である場合に約 2 5 % の改善効果が得られる。また、上部電極および下部電極のパターンが図 5 に示されるものである場合は、上部電極および下部電極のパターンが図 8 に示されるものである場合と比較して、透明基板 1 0 2 6 の厚さが 5 . 0 mm である場合に約 2 7 % の改善効果が得られる。このことから、幅 W 1 に対する幅 W 2 の比を調整することにより改善効果が最大となる透明基板 1 0 2 6 の厚さを調整できることを把握できる。

【 0 1 0 0 】

#### 7 実施の形態 4

実施の形態 4 は、タッチパネルに関する。

【 0 1 0 1 】

図 1 4 の模式図は、実施の形態 4 のタッチパネルを図示する平面図である。

【 0 1 0 2 】

図 1 4 に示されるタッチパネル 4 0 0 0 は、実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0、フレキシブルプリント基板 4 0 2 0 およびコントローラ基板 4 0 2 1 を備える。タッチパネル 4 0 0 0 がこれらの構成物以外の構成物を備えてもよい。コントローラ基板 4 0 2 1 は、検出回路 4 0 6 0 および外部接続端子 4 0 6 1 を備える。コントローラ基板 4 0 2 1 がこれらの構成物以外の構成物を備えてもよい。

【 0 1 0 3 】

実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0 が、実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0 に備えられる上部電極 1 0 2 3 および下部電極 1 0 2 1 をそれぞれ実施の形態 2 の上部電極 2 0 2 3 および下部電極 2 0 2 1 で置き換えられることにより得られるタッチスクリーンに置き換えられてもよく、実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0 に備えられる上部電極 1 0 2 3 および下部電極 1 0 2 1 をそれぞれ実施の形態 3 の上部電極 3 0 2 3 および下部電極 3 0 2 1 で置き換えられることにより得られるタッチスクリーンに置き換えられてもよい。

【 0 1 0 4 】

フレキシブルプリント基板 4 0 2 0 は、その一端の付近に端子 1 2 2 0 に対応する端子

10

20

30

40

50

を備える。フレキシブルプリント基板 4020 の端子は、異方性導電フィルム等により、端子 1220 に電氣的に接続される。フレキシブルプリント基板 4020 の他端は、コントローラ基板 4021 に電氣的に接続される。これにより、行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 ならびに列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 がフレキシブルプリント基板 4020 を介してコントローラ基板 4021 に電氣的に接続される。

#### 【0105】

フレキシブルプリント基板 4020 が他の種類の配線に置き換えられてもよい。フレキシブルプリント基板 4020 が省略されコントローラ基板 4021 がタッチスクリーン 1000 に直結されてもよい。コントローラ基板 4021 の機能がタッチスクリーン 1000 に搭載されてもよい。例えば、検出回路 4060 がコントローラ基板 4021 に代えて透明基板 1020 に実装されてもよい。

10

#### 【0106】

検出回路 4060 は、上部電極 1023 と下部電極 1021 との間の静電容量から、タッチスクリーン 1000 における指示体によりタッチが行われたタッチ位置を検出する。また、検出回路 4060 は、検出したタッチ位置を示す位置座標を含む信号を外部接続端子 4061 に送信する。

#### 【0107】

検出回路 4060 においては、投影型静電容量方式の検出口ジックが採用されうる。検出回路 4060 は、指示体と行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 ならびに列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 との間の静電容量の影響を受ける行方向配線 1080、1081、1082、1083、1084 および 1085 と列方向配線 1100、1101、1102、1103、1104、1105、1106 および 1107 との間の静電容量から、タッチ位置を検出する。

20

#### 【0108】

実施の形態 1 のタッチスクリーン 1000 は励起配線および検出配線から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチ位置を示す位置座標を特定できるように構成されるため、実施の形態 1 のタッチスクリーン 1000 を備えるタッチパネル 4000 は、透明基板 1026 が厚板である場合等においても高い感度を有する。

30

#### 【0109】

##### 8 実施の形態 5

実施の形態 5 は、表示装置に関する。

#### 【0110】

図 15 の模式図は、実施の形態 5 の表示装置を図示する断面図である。

#### 【0111】

図 15 に図示される表示装置 5000 は、液晶表示素子 5020、粘着剤層 5021 および実施の形態 4 のタッチパネル 4000 を備える。粘着剤層 5021 が省略される場合、粘着剤層 5021 が接着剤層に置き換えられる場合等もある。

#### 【0112】

液晶表示素子 5020 は、液晶ディスプレイ (LCD) 等とも呼ばれ、情報を表示する。液晶表示素子 5020 が他の種類の表示素子に置き換えられてもよい。例えば、液晶表示素子 5020 が有機エレクトロルミネッセンス (EL) 表示素子等に置き換えられてもよい。

40

#### 【0113】

タッチスクリーン 1000 の一方の主面 1540 には、粘着剤層 5021 を介して液晶表示素子 5020 が装着される。タッチスクリーン 1000 の他方の主面 1600 には、指示体によるタッチが行われる。タッチスクリーン 1000 は、液晶表示素子 5020 の表示画面 5040 よりも使用者側に配置される。これにより、指示体によるタッチが行われたタッチ位置を検出する機能を有するタッチパネル付き表示装置が得られる。

50

## 【 0 1 1 4 】

実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0 は励起配線および検出配線から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できタッチ位置を示す位置座標を特定できるように構成されるため、実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0 を備える表示装置 5 0 0 0 は、透明基板 1 0 2 6 が厚板である場合等においても高い感度を有し高い視認性を有する投影型静電容量方式のタッチパネル付き表示装置となる。

## 【 0 1 1 5 】

## 9 実施の形態 6

実施の形態 6 は、電子機器に関する。

## 【 0 1 1 6 】

図 1 6 は、実施の形態 6 の電子機器を図示するブロック図である。

## 【 0 1 1 7 】

図 1 6 に図示される電子機器 6 0 0 0 は、実施の形態 4 のタッチパネル 4 0 0 0 および電子処理部 6 0 2 0 を備える。

## 【 0 1 1 8 】

電子処理部 6 0 2 0 には、外部接続端子 4 0 6 1 から出力される位置座標を含む信号が入力される。電子処理部 6 0 2 0 は、電子素子である信号処理素子からなり、入力された信号に含まれる位置座標に電子的な処理を行い、位置座標を示すデジタル信号を出力する。信号処理素子からなる電子処理部 6 0 2 0 が他の種類の電子処理部に置き換えられてもよい。例えば、信号処理素子からなる電子処理部 6 0 2 0 が多数の電子部品を備える電子回路からなる電子処理部に置き換えられてもよい。

## 【 0 1 1 9 】

電子処理部 6 0 2 0 がタッチパネル 4 0 0 0 に接続されることにより、検出回路 4 0 6 0 により検出されたタッチ位置の情報をコンピュータ等の外部信号処理装置に出力する、デジタイザ等のタッチ位置検出機能付き電子機器が得られる。

## 【 0 1 2 0 】

信号処理素子が、コントローラ基板 4 0 2 1 に内蔵されてもよい。この場合は、信号処理素子がユニバーサルシリアルバス（USB）のようなバス規格に準拠する出力機能を有するように構成され、汎用性の高いタッチ位置検出機能付き電子機器が得られる。

## 【 0 1 2 1 】

実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0 は励起配線および検出配線から指示体までの距離が長い場合でも相互容量の変化を検出できるようにしタッチ位置を示す位置座標を特定できるように構成されるため、実施の形態 1 のタッチスクリーン 1 0 0 0 を備える電子機器 6 0 0 0 は、透明基板 1 0 2 6 が厚板である場合等においても、高い感度を有する投影型静電容量方式のタッチ位置検出機能付き電子機器となる。

## 【 0 1 2 2 】

なお、本発明は、その発明の範囲内において、各実施の形態を自由に組み合わせたり、各実施の形態を適宜、変形、省略することが可能である。

## 【 0 1 2 3 】

この発明は詳細に説明されたが、上記した説明は、すべての局面において、例示であって、この発明がそれに限定されるものではない。例示されていない無数の変形例が、この発明の範囲から外れることなく想定され得るものと解される。

## 【 符号の説明 】

## 【 0 1 2 4 】

1 0 0 0 タッチスクリーン、1 0 2 0 透明基板、1 0 2 1 , 2 0 2 1 , 3 0 2 1 , 9 0 2 1 下部電極、1 0 2 2 層間絶縁膜、1 0 2 3 , 2 0 2 3 , 3 0 2 3 , 9 0 2 3 上部電極、1 0 8 0 , 1 0 8 1 , 1 0 8 2 , 1 0 8 3 , 1 0 8 4 , 1 0 8 5 , 2 0 8 1 , 2 0 8 2 , 2 0 8 3 , 3 0 8 1 , 3 0 8 2 , 3 0 8 3 , 9 0 8 1 , 9 0 8 2 , 9 0 8 3 行方向配線、1 1 0 0 , 1 1 0 1 , 1 1 0 2 , 1 1 0 3 , 1 1 0 4 , 1 1 0 5 , 1 1 0 6 , 1 1 0 7 , 2 1 0 3 , 2 1 0 4 , 2 1 0 5 , 3 1 0 3 , 3 1 0 4 , 3 1 0 5 , 9 1 0

10

20

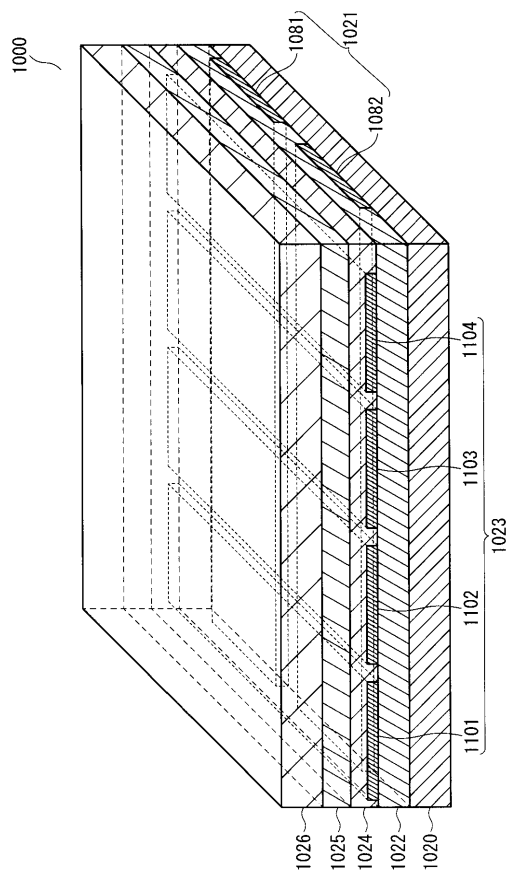
30

40

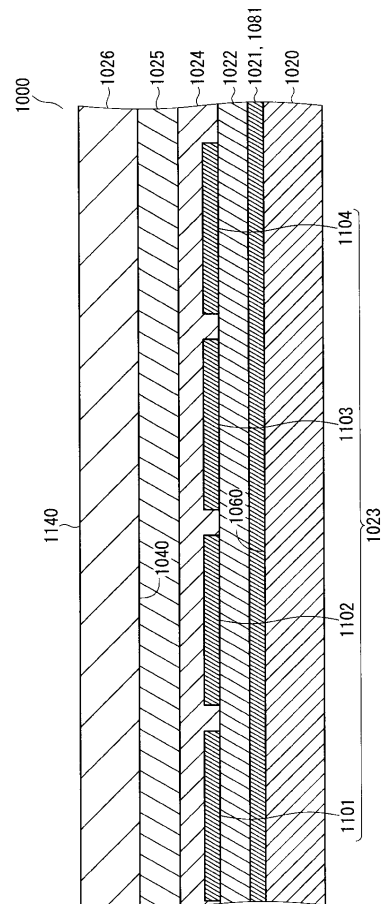
50

3, 9104, 9105 列方向配線、1220, 1280, 2220, 2280, 9220, 9280 線状部、1240, 1241, 1242, 1243, 1244, 1245, 1300, 1301, 2240, 2241, 2242, 2243, 2244, 2245, 2300, 2301, 3240, 3241, 3242, 3243, 3244, 3245, 3300, 3301, 3302, 3303, 3304, 3305, 3306, 3307, 9240, 9241, 9242, 9243, 9244, 9245, 9300, 9301 枝分かれ部、4000 タッチパネル、5000 表示装置、6000 電子機器。

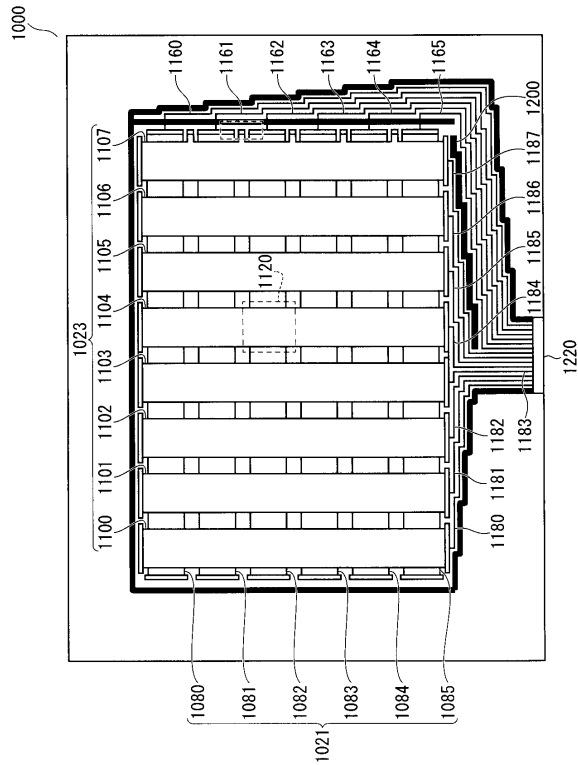
【図1】



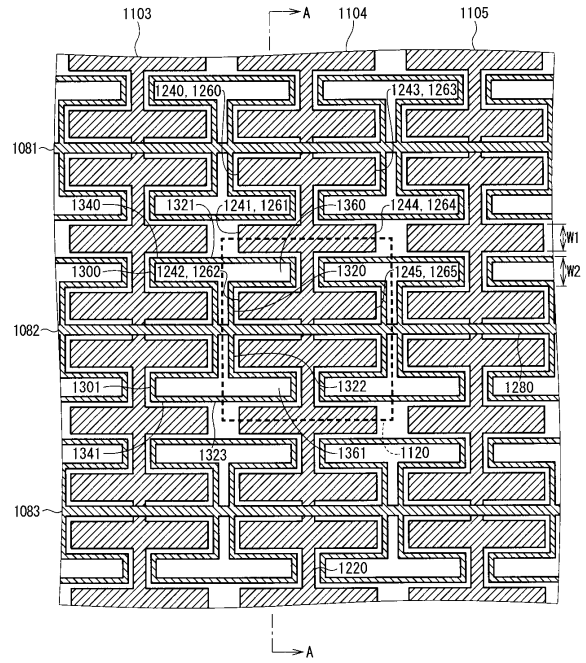
【図2】



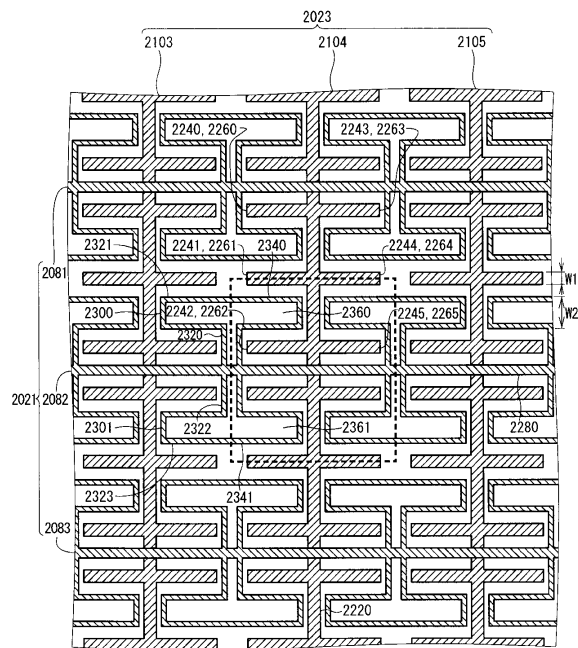
【図 3】



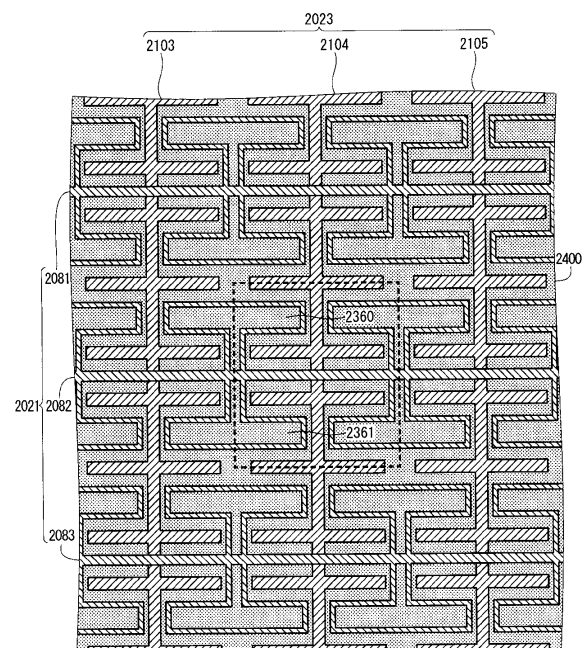
【図 4】



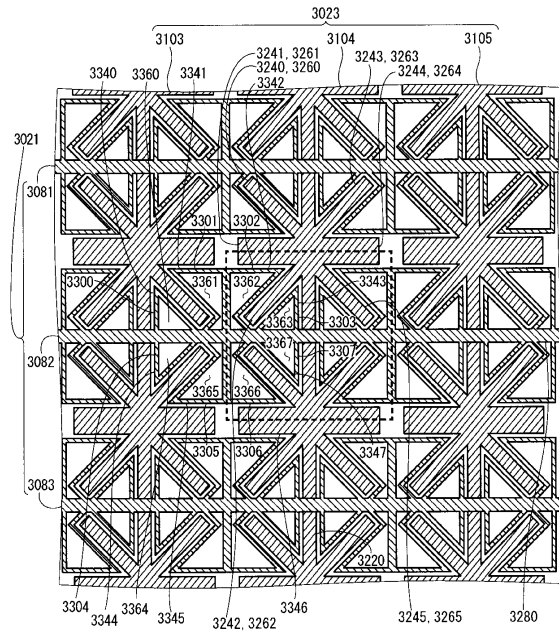
【図 5】



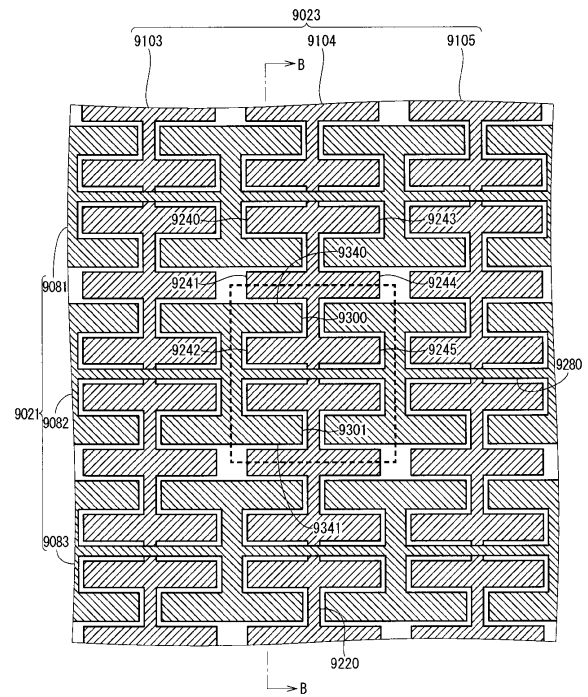
【図 6】



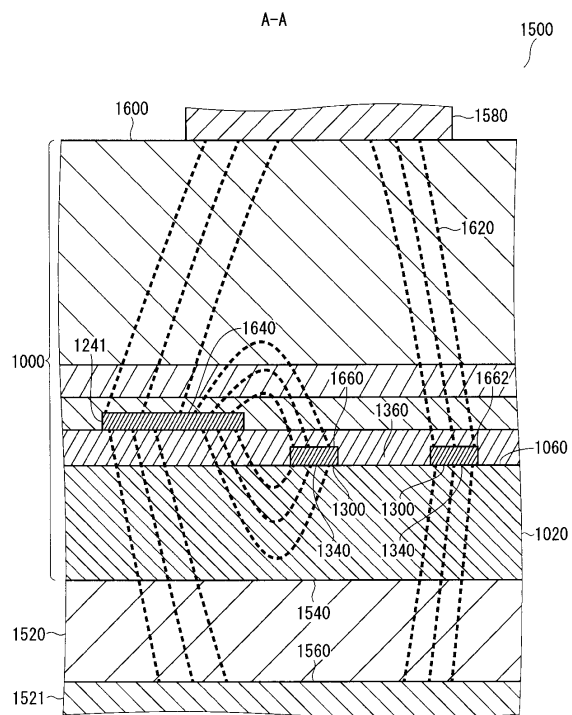
【図 7】



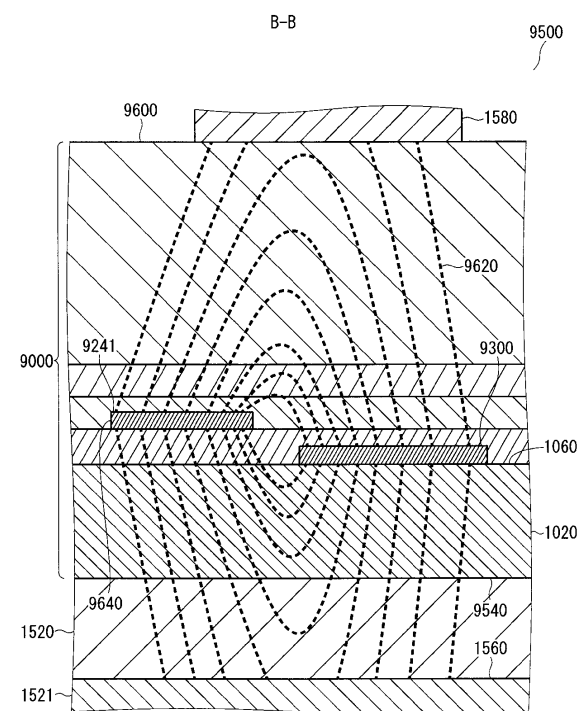
【図 8】



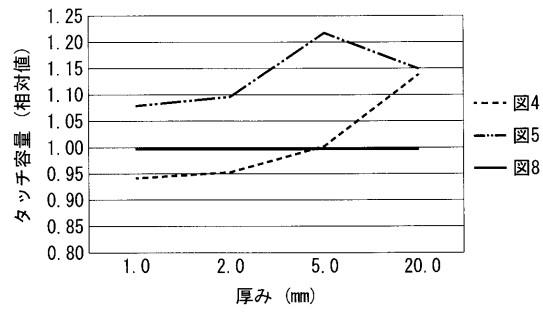
【図 9】



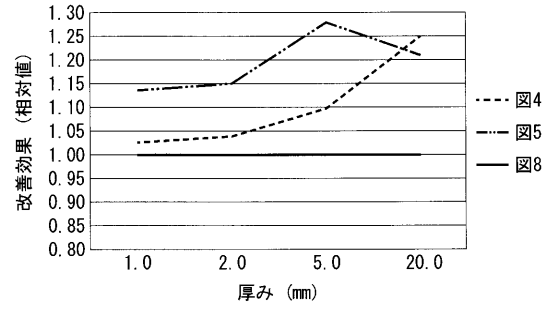
【図 10】



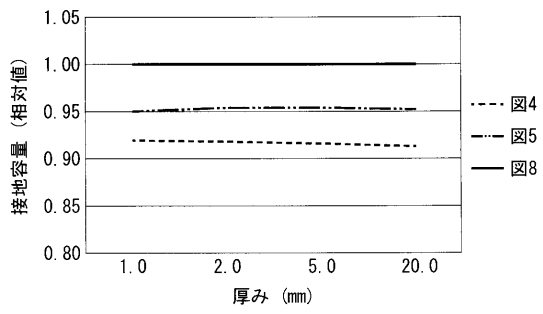
【図 1 1】



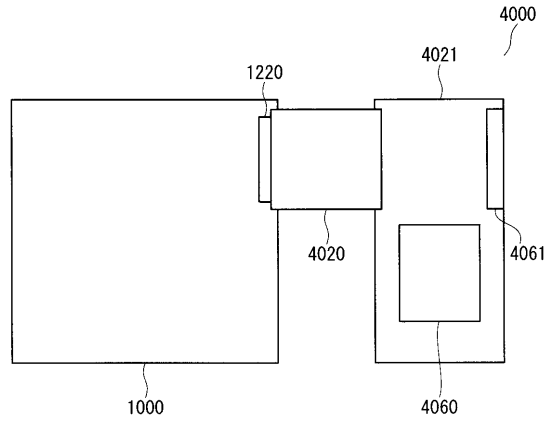
【図 1 3】



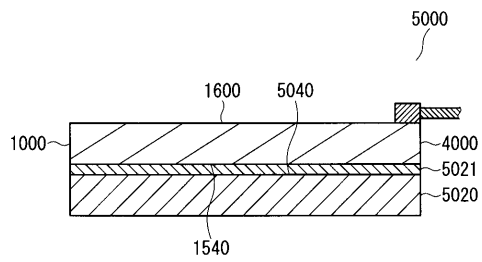
【図 1 2】



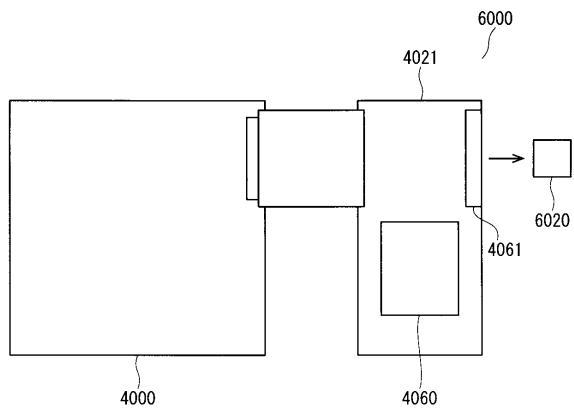
【図 1 4】



【図 1 5】



【図 1 6】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 国際公開第2012/096210(WO,A1)

特開2014-186535(JP,A)

特開2010-198586(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)

G06F 3/03

G06F 3/041 - 3/047